

平成27年11月25日
デジタルアーカイブの連携
に関する実務者協議会

国立国会図書館におけるデジタル アーカイブ整備に係る取組状況

国立国会図書館
電子情報部電子情報企画課長
大場 利康

1. 書籍等分野のアグリゲータとしての役割

① 各館の所蔵目録整備支援、統合・提供

- 公共図書館が所蔵する和図書の総合目録(NDL総合目録ネットワーク)を提供。平成24年1月以降「国立国会図書館サーチ(NDLサーチ)」(参考資料1参照)を通じて提供。大学図書館は、国立情報学研究所(NII)がCiNiiを提供しており、NDLサーチで連携済み。

② コンテンツ拡充のための資料デジタル化の促進

- 公共・大学図書館等の所蔵資料のデジタル化の推進
 - 資料デジタル化の手引きの公開、デジタル化研修の実施による人材育成支援
- NDL所蔵資料のデジタル化の継続実施
 - 平成26年度補正(第一号)予算によるデジタル化(現在の提供状況は参考資料2参照)

③ 各館のデジタルコンテンツのアクセス保証

- 維持困難となったアーカイブコンテンツの保護
 - 存続できなくなった地方の震災アーカイブをNDLが収集・保存し、「NDL東日本大震災アーカイブ」で提供
- メタデータ整備支援、集約・提供
 - 共通メタデータスキーマとして、DC-NDLを提示、WebAPIによるメタデータ連携の促進
 - NDLサーチと公共・大学図書館のデジタルアーカイブの連携促進

④ 各館のデジタルコンテンツのウェブ公開の推進

- 著作物・著作者単位での裁定結果の共有のため、NDLがインターネット公開しているデジタル化資料のうち、文化庁長官裁定リストを平成27年5月に公開 <https://opening.dl.ndl.go.jp/search#2>

⑤ デジタル化資料の利活用の促進

- 著作権保護期間が満了した資料の転載手続の簡素化、デジタル化資料の画像データの試行提供など

2. 国全体の統合ポータル構築のために

① 国全体の分野横断型統合ポータルの構築・提供

- NDLサーチの連携拡張（「NDLサーチ連携拡張に係る実施計画」平成27年3月策定；参考資料参照）
 - 国内デジタル資源へのナビゲーションの充実を図るため、国全体のメタデータの集約機能を目指す
 - 分野別・地域別にメタデータを集約するアグリゲータとの連携によって、国全体のカバーを目指す
 - 先ず、文化財分野については文化遺産オンラインとの早期の連携を目指す
- メタデータの標準化・オープンライセンス化の推進
 - 利活用の共通ルール化も含め、推奨ガイドラインの策定が喫緊の課題

② 集約したメタデータの利活用促進

- 目的別・分野別ポータルの提供及びその支援
 - 震災関連コンテンツに関しては、集約したメタデータを用いて「NDL東日本大震災アーカイブ」を充実
 - NDLサーチが集約・提供するメタデータを使って、海外への発信・地方からの発信など目的別ポータルの構築を（関係府省・関係機関と協力して）支援

③ コンテンツ利活用促進のための制度整備への協力

- 人材育成
 - デジタル化研修（1.②再掲）のほか、イベントの実施（事例：平成27年1月に実施した「Europeana」担当者及び国内有識者を招いたデジタルアーカイブに関するシンポジウムの開催）
- 法制度整備
 - 文化庁著作権課が進める孤児著作物の制度整備などへの協力

新たな発見、価値の創出へ

- ・海外からの注目
- ・地方への注目
- ・教育利用
- ・商業利用
- ・防災利用など

経済効果

- ・民間等施設へのコンテンツ商用利用の収益還元
- ・集客効果

【コンテンツの活用/創出の促進】

- ・目的別検索・付加価値サービスの活用による利活用の促進
- ・新規コンテンツの創出

【メタデータの利活用の促進】

- ・目的別・分野別、ジャンルごとの検索プラットフォームの提供
- ・付加価値情報の付与（多言語化、画像化、3D化）



【国全体の分野横断型統合ポータル構築】

- ・国全体が保有するコンテンツの所在情報を含むメタデータの集約/API提供
- ・全体標準化、利活用の共通ルール策定への協力

デジタルアーカイブの連携に関する関係府省等連絡会・実務者協議会を通じて調整

【恒久的保存基盤の整備】

- ・アーカイブ構築のための法整備（孤児著作物への対策等含む。）への協力
- ・維持困難となったアーカイブのコンテンツ保護
- ・各図書館のデジタル化入手困難書籍の収集・保存

恒久的保存基盤

書籍等

国立国会図書館

【領域ごとのアグリゲータ】

- ・（領域ごとの）メタデータ集約
- ・メタデータ標準化
- ・デジタル化/公開支援

【各機関】

図書館

官公庁、企業、美術館・博物館、文書館ほか

- ・所蔵目録DB化
- ・デジタル化＝コンテンツ作成
- ・ウェブ公開の推進

(参考資料1) 国立国会図書館サーチの現状と今後の方向性

国立国会図書館サーチ

<http://iss.ndl.go.jp>

- 国立国会図書館及び他機関が保有する紙・デジタル媒体等の様々な形態の情報資源の書誌・メタデータを横断的に検索
- 図書館、博物館、美術館、公文書館、民間企業等分野も問わない
- 約**100**データベース、約**1億**件のメタデータを検索
- 同じ書誌をグループ化し、各種の入手手段に案内
- 「外部提供インターフェース(API)」提供
- 多言語対応(日/中/韓/英): 各言語版＋翻訳機能
- スマートフォン対応

「約100のデータベース」の内訳(代表的なもの):

国立国会図書館

- NDL-OPAC
- 国立国会図書館デジタルコレクション
- インターネット資料収集保存事業(WARP)
- 総合目録ネットワーク(ゆにかねっと)
- レファレンス協同データベース
- リサーチ・ナビ
- ...

学術情報機関

- CiNii Articles
- CiNii Books
- JAIRO
- J-Stage
- 人間文化研究機構統合検索システム
- ...

博物館・美術館・公文書館

- e国宝
- 国立美術館所蔵作品総合目録検索システム
- 国立公文書館デジタルアーカイブ ...

公共図書館・大学図書館デジタルアーカイブ

- 約40のデジタルアーカイブが検索可能

その他

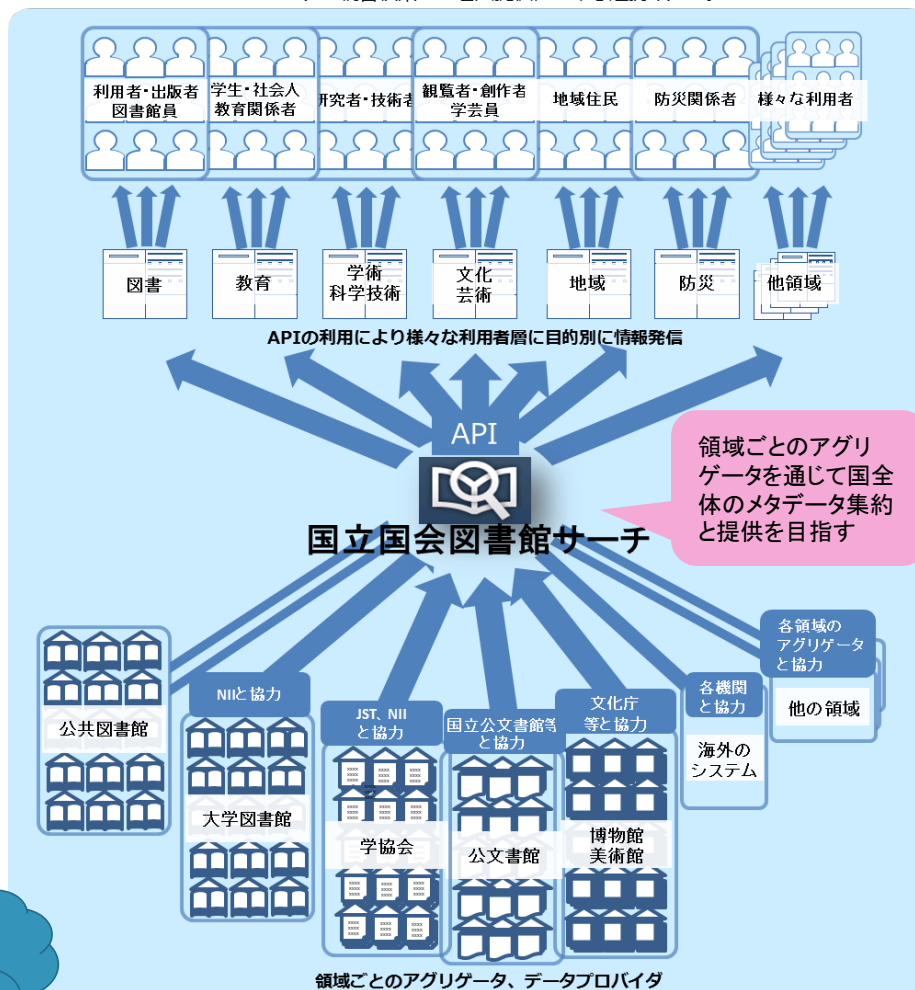
- Japan Knowledge
- JPO 近刊情報センター
- 青空文庫

海外図書館

- Dlibrary (韓国国立中央図書館)

カバー率は、公共図書館で40%程度、大学図書館では10%以下

NDLサーチの統合検索サービス提供における連携イメージ



「NDLサーチ連携拡張に係る実施計画」より

<http://iss.ndl.go.jp/information/outline/plan/>

(参考資料2) デジタル化資料の提供状況(概数)

2015年10月時点

	インターネット 公開	図書館送信	国立国会図書館内 限定	合計	年代・内容
図書	35万点	50万点	5万点	90万点	1968年までの受入れ分
雑誌	0.9万点	73万点	50万点	123.5万点	2000年までの刊行分
古典籍	7万点	2万点	—	9万点	江戸期以前の和漢書等
博士論文	1.5万点	12万点	0.5万点	14万点	1991～2000年度送付分
歴史的音源	0.1万点	—	4.8万点	5万点	1950年頃までのSP盤等
その他	5万点	—	2万点	7万点	官報、日本占領関係資料等
合計	49.5万点	137万点	62.5万点	249万点	